

健康経営 一步前へ！

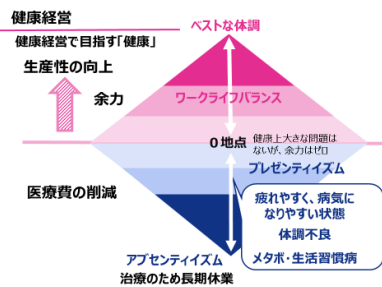
健康経営エキスパートアドバイザー
津田駒工業株式会社 産業看護師
健康相談室担当 田中 直美



このコロナ禍において会員企業さまにおかれましては、感染予防に尽力をつくしていらっしゃると思います。弊社でもコロナ感染予防対策チームを組み、対応しています。コロナの影響で世界中の人々の価値観が一変しました。石川県でも感染者数が増え、会員企業さまも第三波に備え、さらに気を引き締めていらっしゃることでしょう。

ところで「皆さんは、健康ですか？」

この図で言うと皆さんはどの地点にいるでしょうか。



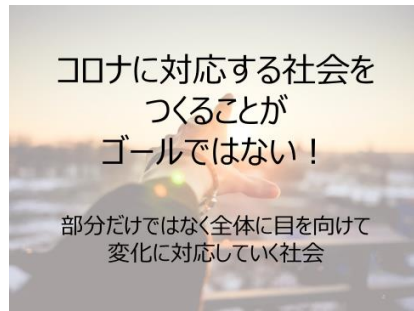
ゼロ地点では、健康上大きな問題はないが余力はゼロです。そこから下は「プレゼンティズム」休業していないが体調が整わず、脳力を発揮していない状態。花粉症も腰痛も風邪もこちらに入ります。それによる生産性の低下は、「アブセンティズム」といって完全休業による生産性の低下よりも、3倍も生産性が低いというアメリカのデータがあります。

このゼロ地点より上を目指すことにより、生産性の向上、医療費の削減にも繋がっていきます。なにしろ余力が生まれるので、プライベートも充実していきます。ここからだをご機嫌にしていって生産性を上げていくのです。

健康経営でいう「健康」というのは「ゼロ地点」より上です。というもののすごくハードルが高いように感じますが、だからこそ、全従業員に働きかける、全員のヘルスリテラシーの向上を進めていくことが大切です。疾病を抱えている従業員だけではなく、ポピュレーションアプローチができるということです。一人一人がベストな体調を目指していくことでそれぞれが持つ能力を最大限に引き上げることができる環境。こちらを目指していくことです。

忘れてならないのは、私たちが企業活動を行っていく上で目指す社会はコロナに対応した社会をつくるのがゴールではありません。世の中は常に変化をしてきているという視点で捉えていくことが重要です。変化の全体を見ていくこと。コロナの影響でいろいろな未来がスピードを上げて目の前にやってきました。リモートワークをとっても、未来にはオンラインでビジネスができるようになっていたと考えられます。コロナという部分だけではなく社会全体として捉えて対応していくことが大切だと考えます。

現在、企業でマスクをする、手洗いをするなどのコロナ対策の取り組みによって集団感染を防ぐことができてきています。感染予防対策をすることで企業の労働生産性が上がります。もちろん個人の感染予防も重要ですが、企業としてどのような取り組みをしていくのかが労働生産性の確保という意味でもとても大切になってきます。



このように従業員の健康に配慮することが企業の免疫力、体力を上げていくことに繋がります。ヘルスリテラシーを上げていくことが大切なのですが、リテラシーは実践することで初めて効果が出てきます。コロナに隠れてインフルエンザやその他の感染症が減っていると言われていますが、集団でマスクをした、手洗いをした、消毒をした、このリテラシーを実践した結果、効果があった例でしょう。

社会変化

- 社会保障費の高騰
年金、医療費、介護の負担増
- 人口の年齢構成と総人口の変化
少子高齢、人口減少
- 社会（地球、世界）の持続可能性の脅威
SDGs、ESG、グリーンリカバリー
- 経済活動の主体の変化
Society 5.0 経済発展と社会課題解決の両立
etc...

また、これからの日本の社会変化として、社会保障費の高騰、人口の年齢構成と総人口の変化、つまり、少子高齢、人口減少は避けられません。地球、世界のレベルから見ても持続可能性への脅威から SDGs や ESG、グリーンリカバリーなどの取り組みが事業の中で展開されていきます。

経済活動の主体の変化を見ても、内閣府発信の Society 5.0 では、「ひと」中心の社会へと変化していく時代です。経済発展と社会課題解決の両立を目指していくことが企業活動にも求められるのではないかと考えます。

そういった意味でも健康経営は、従業員のココロとカラダの健康に配慮することで、高い技術力を持った「ひと」が長く健康に働いていくための有効な経営手法で、「ひと」を大切にすることで、生産性が上がり、さらに企業価値が高まると考えられます。

それでは、具体的にどのように進めていけばよいのでしょうか。

経済産業省で行われている取り組みは「健康経営優良法人認定制度」大規模企業部門では「ホワイト500」、昨年度より中小法人企業部門に「ブライト500」が設けられました。

2. 実行

<進め方>

- (1) 健康宣言
- (2) 組織体制
- (3) 健康課題の把握
- (4) 計画策定・健康づくりの推進
- (5) 取り組みの評価・見直し

2. 実行

いしかわ健康経営宣言企業 認定の手続きについて

1 職場の健康づくりの取り組み状況をチェックしましょう

2 申請書を届へ提出

3 健康づくりに取り組みましょう

4 毎年、取り組み内容をひりかえり

認定後のメリット

- 県のホームページ等で従業員の健康づくりに積極的に取り組む企業等として宣伝します
- 健康情報や健康イベント等を優先的にご紹介いたします
- 従業員の健康づくりの取り組みに係る相談・支援を行います
- 特に優れた取り組みを行った企業を表彰します

また、都道府県では、「健康経営宣言企業」という取り組みがされています。この2通りがあります。どちらも保険者を通してエントリー申請をしていきます。

どちらも概要は同様で図のように進めていきます。今回は石川県の取り組みを例にしてお伝えします。

まず、①宣言文等に代表者の署名等を行い、宣言をしたことを社内外に公表する。②組織体制、つまり担当者を決め、③企業の健康課題と④考えられること1つに取り組み、⑤評価、改善をしていく。というPDCA サイクルを回していきます。

健康づくりの取り組みは、今年一回したから大きな成果が生まれた。ということではなく、継続していった初めて成果が見られるものです。

初めて取り組まれる企業さまには石川県の「健康経営宣言企業」からエントリーされることをおすすめします。

続けていくコツは、「楽しむ」ことです。

正しいことだとわかっていても、楽しくなくては続けていかれません。ましてや、担当者には他にしなければいけない仕事がたくさんあります。

正しいことが続くのではなく、「楽しい」ことしか続かないのですから。

そして、やがてそれを繰り返すことによって、習慣となり、企業文化となりえます。例えば、弊社ではヘルシーチャレンジと名付けてウォーキングイベントをするのですが、担当者が遅れていると「次はいつするの」と催促されることもよくあります。チャレンジをされている方同士のコミュニケーションも活発になり、メンタルヘルス対策の一つにもなっていきます。

さらに、みんなの使っている言葉も変わっていきます。達成するよ!とか、やるよ!できるよ!という言葉が良く使われるようになります。

3. 続行

楽しんでいるところに人は集まる



最高のパフォーマンスが発揮できる環境になっていく



企業文化は言葉でも作られていきます。従業員が使っている口ぐせも周囲に影響を与えるので、できる!やってみよう!と言合うだけでも、良いホルモンが出て、ネガティブを吹き飛ばしてくれます。

ひとつの健康づくりを進めていくと、それが連動されて、いろいろなところで良い影響が多くあるようです。

まずはできるかできないかを考えるより、「やってみよう」と一歩進まれることをお勧めいたします。

また、金沢衛生管理者研究会では、職場の安全衛生から健康経営まで皆さまのお役に立つ情報を揃えておりますので、お気軽にお問合せください。新規入会企業も募集しています。